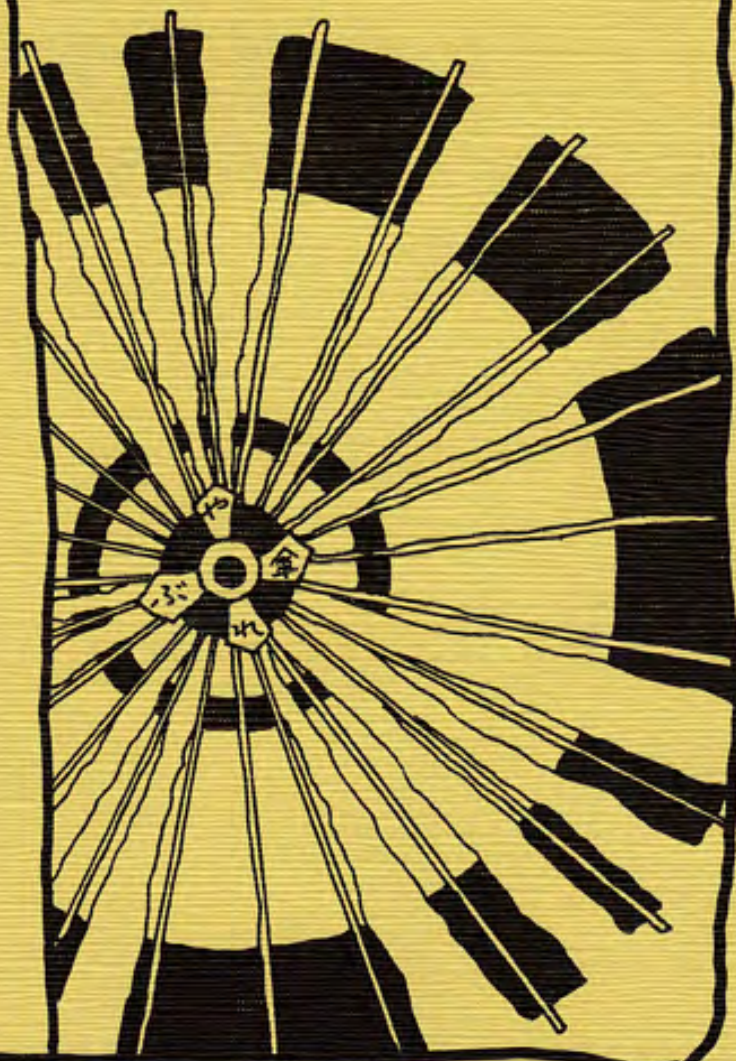


やぶれ傘



一〇七号

二〇一九年四月

木の匂ふ巣箱の下をとほりけり	根橋宏次
初蝶は広報板のうしろより	大島英昭
コンテナに少し離れて土筆摘む	きくちきみえ
階段に似顔絵描きの日向ほこ	廣瀬雅男
蜂蜜に白木の小匙スイートピー	青谷小枝
側溝の急流京の春の水	丑久保勲
畦焼きの火勢見てゐる消防士	瀬島洒望
河原へは石の階段草青む	渡邊孝彦
蜂蜜は壺からとろり杏子散る	藤井美晴
電線に風のぶつかる白木蓮	天野美登里
伊予柑の残り半分ラップして	小山よる
鳴きながら猫のうろつく春隣	白石正躬
二階建てバスの座席へ春一番	安藤久美子
春祭り幕のすき間に手を振る児	秋山信行
烟るやうなミモザの花の下に猫	有賀昌子

抄 集 句 傘 ぶ れ や
選 夫 紀 崎 大

夜目白くまあるく香る沈丁花	松村光典
七階の窓より豆をまきにけり	鈴木昌子
人の手に両手で渡す落の藁	中島和子
木に熟すみかん食べてはまた採る子	貫井照子
散りし梅汲みあげてゆく水車かな	橋本美代
こはこはと初孫を抱く大旦	広瀬 濟
春隣和紙のやうなる昼の月	武藤節子
裏山の枝垂桜が地に触れて	安齋正蔵
秩父路は春細打ちのとろろ蕎麦	泉 一九
芽吹く野に牛の集まる昼餉時	稲田延子
落のたう活けて咲かせてみたりして	奥田温子
おむすびを買うておまけのふきのたう	倉澤節子
金縷梅の貧しき花も形見かな	黒澤次郎
古伊万里の小さき井木の芽和へ	齋藤朋子
立ち去るに長靴で踏む畔火かな	眞田忠雄

七階の窓より豆をまきにけり
オムレツのふわつと焼けて春立てり
春雨に傘さす人とささぬ人
氏神の竜の口より水温む
無造作にバケツの中に桃の花
お品書き春の山菜あれこれと
香り立つ朝餉の汁に露の臺

鈴木昌子

ひと振りの七味のききて根深汁
針金で枝釣りあげて鉢の梅
絵馬の鳴る神田明神受験どき
ひとつかみ妻にも当てて福は内
二階より春蚊うろうろ飛び来たる
天井を仰ぎ大の字春炬燵
古書街は今も変はらず春の宵

高橋均

竹内文夫

眼裏の「忘れえぬ女」雪もよひ
冬入り日影絵のごとく駈ける子ら
吊るさるる鮫鱈の目は凍てついて
寒明けの富士を真中にビルの群れ
永き日や剃刀をふと頬に当て
童らはさへづるごとく園に春
春浅しシャッター街に古い二人

塚本虚舟

亀鳴くや鯉は大きな欠伸して
一茶よく訪ねし寺の実万両
昇る陽を昇るまで見て春の山
学友と烏鷺囲みぬる春の宿
下萌えて聞こゆる曲はポルカな
背に聴く伏流水や座禅草
雁風呂の湯気は異国の匂ひして

時田義勝

富士山の大きく見ゆる初ゴルフ
氷張る池面に近く鯉が行く
冬鳥の声の賑やかネズミモチ
一本足であをさぎ不動冬の昼
蠟梅の溶け出しさうな日差しかな
鎮守社の世話役終り鬼やらひ
雄雉の争ふ土手の青みけり

中島和子

白木蓮よりも洗濯物を高く干す
駅近き盆栽村の露の臺
駅前の花壇の花の茎立ちて
公園に朝日あふる土佐水木
人の手に両手で渡す露の臺
新都心ビルより登る春満月
春昼のしづかに混めり陶器市

貫井照子

寒の入り櫛の樹液のきらきらと
木に熟すみかん食べてはまた採る子
シリウスを仰ぎて熱き珈琲を
ストーブの薪の炎をみつめをり
雲のなき三月の空地鎮祭
囀や松の移植に五六人
啓蟄や白き地縄の張られをり

野口希代志

魯田に忘れ去られし子供靴
寒月や宅配便のコールあり
厚切りのトーストがぶり冬のカフェ
NとN反発し合ふ寒波かな
かんじきのもぐつてしまふもどかしき
山あひにソーラーパネル春炬燵
ワイン手にビバルディ聴く春の宵

萩原溪人

枯木星更けゆく街の灯しかな
冬田道さきは裾野の八ヶ岳
凧や繋がれ揺るる貸しボー
吊革の揺るるに任す初詣
金縷梅や峠を越えて和紙の里
春昼やアールグレーの香は居間に
下萌の野に大の字や空青し

萩原久代

二歳児の拾ふごはんは落椿
ごろごろと寝てばかりぬる合格子
春寒しパンク自転車押して行く
転がりし鉢の中よりもの芽が
持病ある脚を庇つて春炬燵
春嵐子らを駅まで送る朝
庭隅の両手に余る露の臺

豆撒きに力士の飛ばす袋菓子
赤鬼の子等にお愛想鬼やらひ
整形と眼科受診す雨水かな
消防車待機して居る野焼かな
散りし梅汲みあげてゆく水車かな
出勤の傘に張り付く梅の花
山笑ふ久々に履くスニーカー

橋木美代

スクラムを組むフォワードの息白く
ビル風が傘をおちよこに冬の雨
鍵穴に鍵挿す指も悴惇んで
春の空霞みて富士の薄らと
水温みゆつたりと鯉泳ぎゆく
公園で遊ぶ子供ら草青む
リフォームの造作の花ミモザ

濱野新

広瀬 濟

寒風に揺るる吊り橋渡りけり
ドアノブに掛けられてゐる冬菜かな
こはごはと初孫を抱く大旦
風邪に臥し天井板の節数へ
冬日和妻の歩幅で散歩する
空つ風砂塵の中にバスを待つ
幼子の紙風船にあきもせず

本郷美代子

枯園は施設の工事中ばかり
連れ立ちて知らぬ町行く春ひと日
春愉しはじめて臨む太郎冠者
琴を弾くネーデルの指や梅の花
兄の忌(ノ)の古刹の陰に斑雪
畑中に残る青菜の莖立てり
うららかな湖上に遠く舟一艘

軒下に懸け大根の乾びる
 春寒くらふそく祭り果てにけり
 雀どち来て早春の20℃
 楠並木夕日に映える遅日かな
 ノロノロの江ノ電を越し初燕
 田楽と菜飯セツトや昼のめし
 春しぐれ大きなだるま売れ残る

本田武

梵鐘の余韻が庭に冬牡丹
 遠来の友と爛酒ちろりにて
 建売の初売り飾る万国旗
 夜明け朝日差し入る火事の跡
 春の日の木影黒き苔の庭
 雨上がりの梅が香満つる天満宮
 梅園の出店の上を鳶回る

増田裕司

松本善一

底冷えや花街に円両替機
冬銀河ケータイに声残し逝く
青竹の花入れ松と侘助と
枯庭にあぢさゐの花色残す
はしご酒冬の満月大いなる
ふぐ喰ふや悪代官に鍋奉行
おつまみの福豆「厄除け祈禱ずみ」

箕田健生

老梅に今年の花の出来を誉め
冴え返る空に一筋飛行機雲
ストラディバリウスの妙なる調べ雛祭
落椿雨の歩道にただひとつ
ミモザ咲く庭へと届く波の音
幼児のふくよかな頬白木蓮
ニツト帽被る幼児猫柳

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
5月	1日(木)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	井の頭公園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は 奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHKは5月31日(金)に変更。

6月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR吉祥寺駅
公園口(南口)改札を出たところ。句会場は吉祥寺西コミセン。

駅より徒歩15分。バスもあります。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856